

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和5年8月)

～訪日客の増加や祭り等の数年ぶり開催で、現状判断は小幅上昇～

- 景気ウォッチャー調査・8月調査の近畿地域の結果は、現状判断が54.7と前月比で2か月連続の上昇(+0.1ポイント)となった。好不調の目安となる50は8か月連続で上回っている。一方、先行き判断は52.9と2か月ぶりの低下(+2.5ポイント)となった。
- 足元の景気については、中旬の台風の接近で多くの業種に影響が出たものの、インバウンドの増加が牽引役となり、百貨店や都市型ホテル、コンビニなどを中心に好調な動きが続いた。また、4年ぶりに行動規制のない夏となり、各地で夏祭りや花火大会が開催されたことも消費の押し上げにつながっている。一方、今夏の暑さに伴い、当初は季節商材の販売増に期待が集まったものの、日中の厳しい暑さによる出控えが起きたことで、おおむね相殺される形となっている。
- 一方、物価やコストの上昇が続く中、幅広い業種での悪影響が続いている。スーパーや家電量販店をはじめとする小売関連を中心に、消費マインドの低下や節約志向の強化が続いているほか、製造業などの企業関連でも、価格転嫁の遅れによる経営環境の悪化が広がっている。今月は円安の進行や原油相場の上昇も重なったことで、よりコストの上昇が意識される形となった。
- 先行きについては、引き続きインバウンドの増加に対する期待が、百貨店やホテル、コンビニなどを中心に高まっている。特に、中国人団体旅行が解禁されたことで、中国人客の増加が期待されている。日中関係の悪化への懸念の声も聞かれるものの、円安環境が続いていることもあり、インバウンド市場の先行きについては期待の声が多い。
- その一方、物価やコストの上昇に対する警戒感は引き続き強い。価格転嫁が徐々に困難となる中、スーパーや家電等を中心とした小売関連のほか、製造業や建設業といった企業関連でも厳しい声が多い。ガソリン代のほか、電気・ガス代への政府補助の延長への安堵感はあるものの、円安の継続が輸入価格の上昇につながるほか、原油相場の高騰への懸念もあり、コスト上昇への不安は業種を問わず広がっている。

「猛暑」関連のコメント(現状判断)

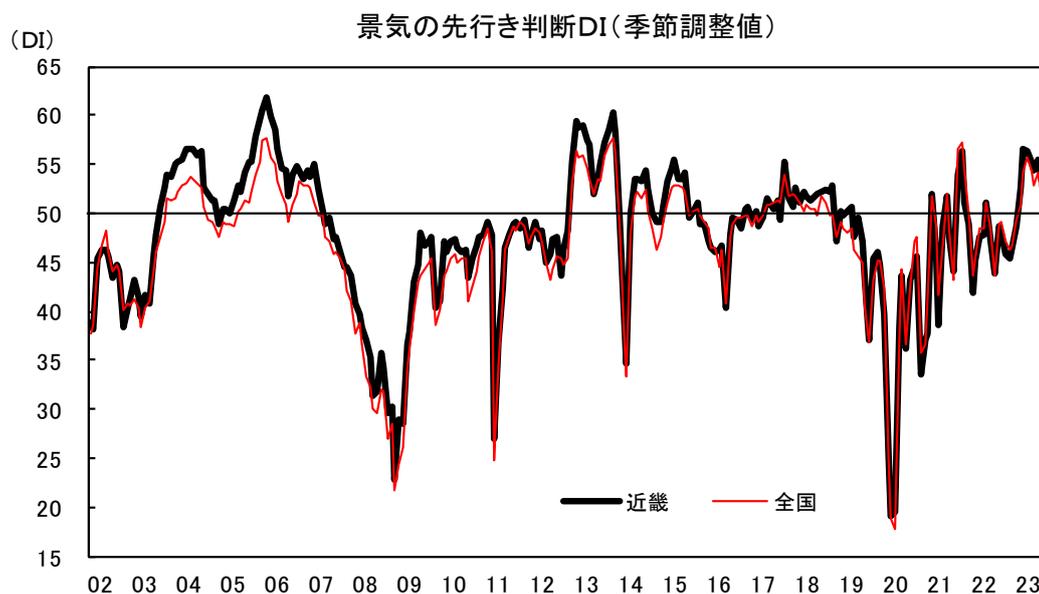
家計動向関連	良くなっている	百貨店(サービス担当)	・今月も売上上の拡大傾向に変化はなく、好調に推移している。特に連日の猛暑により、紫外線対策商品の日傘やUV化粧品関連を中心に、カジュアル衣料雑貨が好調となり、プラス要因となっている。外国人観光客の増加傾向にも変化はなく、来客数の増加で売上をけん引している。
		コンビニ(経営者)	・猛暑が続き、弁当の売上が前年比で6%減っている一方、冷麺類は8%増えており、売上全体に変化はない。18~21時頃までは人通りが多く、酒類やおつまみなどの売上が5%増となっている。
	やや良くなっている	百貨店(管理担当)	・猛暑による影響もあり、総菜や菓子などの持ち帰り商品の売上が大きく伸びている。また、レストランの売上も前年比で70%増と復調しつつある。
		百貨店(マネージャー)	・国内客の現金売上は、前年比で約9%増となった。予想どおり、夏休みに入ってお盆を中心に人流が活発となったほか、暑さのせいで化粧品や婦人用品、バラソル、夏物軽衣料などが好調となっている。また、レストランや総菜、菓子、ペーカリーも好調を維持しているほか、富裕客の動きでは、若年層の間で和洋酒のプレミアム商品が人気である。インバウンドの売上も、一般商品を中心に前年比で200%の増加となっている。

家計動向関連	やや良くなっている	百貨店（マネージャー）	・猛暑が続き、特に高齢の客による来店が鈍いものの、中国からの団体客の解禁により、中国人客が増えている。また、購入商品もかつては化粧品が中心であったが、円安の影響で、アパレルや雑貨などに対象が広がっている。	
		コンビニ（店員）	・更に暑くなり、冷たい商品がよく売れる。	
		家電量販店（人事担当）	・例年にない猛暑により、季節商材の販売量が増えている。一方、電気代の上昇で省エネ製品への関心は高まっているものの、生活必需品ではない理美容商品などの売上は、厳しい状況が続いている。	
		その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・来客数、買上点数共に微増となるなか、食品や日用品の売上は増加傾向にあるが、コロナ禍の収束に伴い、衛生・介護用品は大幅に減少している。一方、猛暑日が続くなかで、ドリンク類や感冒薬などの医薬品や化粧品、化粧雑貨などは順調に売れている。	
		都市型ホテル（総務担当）	・宿泊部門は好調に推移しているが、料飲部門は猛暑や台風の影響で高齢者の外出が減っているのか、なかなか回復せず、一定の水準を保った状態となっている。	
	変わらない	一般小売店〔衣服〕（経営者）	・夏物衣料のバーゲンセール動きも悪く、販売量が落ちている。猛暑の影響もあり、商店街の日中の人通りも少ない。	
		百貨店（販促担当）	・夏休み期間中、来客数は前年を上回る推移となっている。暑さの影響で地下フロアからの入店が中心であり、来客数の増加とともに食品の売上が好調である。また、物価の上昇による影響で、客単価の上昇にもつながっている。当地域はインバウンドが元々多くないため、格段の伸びはないものの、コスメ関連を中心に購買が増えている。	
		スーパー（店員）	・お盆期間中は、お供え物や花などがよく売れたが、お盆明けは台風や暑さの影響で花が値上がりし、客の状況が厳しくなっている。ただし、特売品だけはよく売れている。	
		スーパー（経理担当）	・台風や豪雨により、売上や来客数は少なからず影響を受けている。猛暑による外出機会の減少もあり、売上は堅調であるが、天候要因に左右されている。	
		家電量販店（店員）	・今年の異常な暑さとエアコンの販売量は、意外にも比例しなかった。前年と比べれば上向きであったが、期待していたほどではない。	
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・原油価格が高騰するなか、ガソリンの販売量は前年比で微増の推移となっている。ガソリン価格は上昇しているものの、酷暑であるほか、帰省やレジャーに伴う消費意欲も高い。ただし、9月以降の動向は不透明である。	
		タクシー運転手	・里帰りや夏休みなどで人の移動が増えているほか、暑さの影響もあり、ターミナル駅などでは、人がタクシーを待つ姿がよく見受けられる。	
		テーマパーク（職員）	・レジャー施設にとっては、景気の変化よりも、今年の暑さが間違いなく出控えを招いており、集客の減少につながっている。	
	やや悪くなっている	高級レストラン（スタッフ）	・記録的な猛暑と台風の影響で、お盆の繁忙期に客足が伸びていない。	
		一般レストラン（経営者）	・先日のモニタリング調査によると、今年は夏季休暇を長く取る人が多かった。ビジネス街という場所柄、例年よりも数日多めに休業した分の売上減は想定内であるが、数か月前と比較しても、伸び率は低下している。物価の上昇などによる生活の圧迫に加えて、酷暑による体調不良の増加や台風の影響などで、外食を利用する機会が減っている。	
		美容室（店長）	・今月は非常に暑く、更に台風の影響もあり、来客数がかつての半分以上に減少している。	
	悪くなっている	一般小売店〔時計〕（経営者）	・連日の猛暑で、熱中症警戒アラートが毎日のように出ている。近くの大きな商業施設では、駐車場に入るための渋滞が発生している一方、個人経営の路面店が多い周辺地域では人影がみえない。お盆頃の台風7号の接近もあり、今月は踏んだり蹴ったりという状況である。	
		衣料品専門店（経営者）	・暑さや物価上昇の影響で、人が街に出てきていない。電気代や食料品価格の上昇が問題であり、タクシー代も実質値上げとなっている。	
		衣料品専門店（経営者）	・8月は来客数が減少している。雨や暑さで客は外に出ず、買物にも行かない。最低限の食料品を買うのみとなっている。	
		家電量販店（企画担当）	・酷暑により、エアコンや冷蔵庫の買換え需要が増えているが、その他の家電品やリフォーム関連については、昼間の異常な暑さの影響もあり、ほぼ来店客のいない状況が続いている。	
一般レストラン（経営者）		・猛暑の影響で、特にランチは来客数が激減し、近隣のスーパーも人が少ない。お盆期間も台風で予約がキャンセルになっている。		
企業関連	なっている	やや良くなる	食料品製造業（営業担当）	・外国人観光客の増加や、猛暑日が続いている影響で、飲食店の飲料水の売上が少し良くなっている。
	変わらない	悪くなる	電気機械器具製造業（宣伝担当）	・猛暑の影響でエアコンの販売増が全体を下支えしているが、テレビやBDレコーダーは前年割れの状況である。

「中国人団体旅行の解禁」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	良くなる	百貨店（服飾品担当）	・中国からの団体客の入国解禁で、来客数が更に増加する。今後は大阪・関西万博関連の動きも徐々に出てくるなかで、ラグジュアリーブランドからの改装要請があるなど、先行きには期待が持てる。今後も客単価が上がるほか、マスクを着用している来店客もかなり減っていることから、年末にかけて売上が拡大する。
		百貨店（サービス担当）	・中国からの団体客の規制緩和により、観光客の増加が更に期待できるほか、食品企業との連携による新ショップのオープンや、新たなレストラン導入で集客力がアップし、売上の拡大が期待できる。
		コンビニ（経営者）	・中国からの団体客が入国解禁となり、当地域は大きな影響を受けるため、夜間の来客数が増加する。
	やや良くなる	百貨店（売場主任）	・円安や物価の上昇といった不安要素はあるものの、国内需要は増加傾向にある。さらに、中国からの団体旅行の解禁に伴い、インバウンド需要の増加も見込まれる。国内の中間層による消費拡大には大きな期待は持てないものの、国内の富裕層やインバウンド需要は拡大が期待されるため、現状よりも良くなると予想される。
		百貨店（企画担当）	・中国本土からの観光客が増えるかと予想している。
		百貨店（マネージャー）	・国内客の中間層の動きは全体的に大きく変わらず、個々の消費者の価値判断による選択消費は続くが、秋の行楽やイベントで人流は安定的に増えるため、それに関連する市場は好調が続く。また、インバウンド需要も中国人による購買の増加が大きく寄与し、今後も増加が続くと予想される。
		百貨店（外商担当）	・中国からの団体旅行客の急増が見込まれるため、インバウンド売上の更なる増加は間違いない。さらに、円安の影響で、インバウンドによる高額品の購買の増加にも拍車がかかる。
		百貨店（マネージャー）	・やはりインバウンドの増加への期待が大きい。特に、足元では中国人客の来店や購買が増加している。直近の出国規制の緩和による影響が大きく、多くの商品で中国人客による購入がみられ、売上の底上げにつながっている。
		百貨店（商品担当）	・中国人団体客の規制緩和に伴って、インバウンド需要が伸びるのに伴い、良くなることが予想される。
		百貨店（マネージャー）	・中間層を中心とした国内客の消費が上向いている感覚は、依然として乏しい。インバウンドについては、購入商品の变化により、かつての爆買いは期待できないかもしれないが、中国からの団体客の入国解禁で訪日客数自体は増える。
		家電量販店（企画担当）	・インバウンド需要の回復が期待できる。特に中国からの団体客が解禁となったことは大きい。その一方、国内需要は期待できる要素が見当たらない。
		都市型ホテル（総務担当）	・中国からの団体客の増加で、宿泊需要が期待できるほか、気候も良くなることで外出が増える。また、3年ぶりとなる忘年会や新年会での利用も期待できる。
		観光名所（企画担当）	・インバウンドの増加で来場者数の回復率がアップしてきたが、ここへきて一定の水準で止まりつつある。ただし、中国からの客が増えるなか、どの程度の動きになるかは分からないが、全体の増加につながると予想している。
	その他レジャー施設 〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・中国からの団体客の増加に期待しているが、原子力発電所の処理水放出に伴う、日中関係の悪化による影響が心配される。	
	変わらない	一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・中国人団体客の入国が解禁されたとはいえ、原子力発電所の処理水排出問題もあり、先行きは不透明である。
一般レストラン（経営者）		・燃料費への補助の延長など、明るい兆しが少しみられるため、徐々に上向きの動きが出てくる。ただし、消費者の動きがすぐ変わるわけではないため、少し時間が掛かるかもしれない。また、原子力発電所の処理水排出により、中国からの団体客の訪日が先延ばしになるため、全体では少し良くなるか、現状と余り変わらないと予想される。	
雇関連	変わらない	乗用車販売店（経営者）	・原子力発電所の処理水排出問題で、中国人観光客を中心としたインバウンド需要の減少が懸念される。また、原油価格の上昇や円安が、アフターコロナの景気回復の足を引っ張っており、しばらくは現状が続くようである。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・中国からの団体客の増加で、インバウンドの消費の更なる増加が見込まれていたが、原子力発電所の処理水排出問題で見通しは厳しくなっている。また、中国による不買運動や、日本からの水産物の輸入禁止が経済に与える影響は大きく、景気回復の足止めにつながる。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・今後の景気は、国内情勢よりも国際情勢に左右されようである。中国が日本への団体旅行を解禁したことで、インバウンドがかつての水準に戻れば、関連するホテルや小売店などは、今よりも勢いを増す。一方、中国からは原子力発電所の処理水放出に伴い、水産物の全面的な禁輸が発表されている。ウクライナ紛争も続いており、米国や欧州のインフレも収まったわけではないなど、景気の先行きは流動的な状況である。
		その他雇用の動向を把握できる者	・人手不足に関する声が多いなか、中国からの団体旅行の解禁でインバウンドが更に増えることから、求人は引き続き堅調に推移する見込みである。ただし、物価上昇の影響が続いているほか、製造業からは中国経済の成長鈍化による受注減の話も始まっており、今後は物価上昇の影響だけでなく、中国経済の悪化による雇用への影響も注視する必要がある。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

	21年			22年								23年														
	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	
現状判断	近畿	37.9	44.5	54.0	56.5	56.8	38.3	38.2	48.2	50.5	52.2	51.9	40.0	44.7	50.1	48.8	48.7	49.8	50.4	53.6	55.2	56.4	55.5	54.5	54.6	54.7
	(全国)	35.1	42.7	56.0	58.0	58.3	37.9	37.4	47.1	49.5	53.0	52.1	43.9	45.5	48.9	50.8	49.4	48.7	48.5	52.0	53.3	54.6	55.0	53.6	54.4	53.6
先行き判断	近畿	44.0	53.9	56.3	51.1	48.9	41.9	45.2	47.5	47.8	51.2	47.4	43.9	48.6	48.0	45.9	45.4	46.6	48.6	52.7	56.5	56.4	55.2	54.3	55.4	52.9
	(全国)	43.2	56.6	57.3	54.3	50.1	43.7	45.3	48.4	48.4	51.1	48.4	43.7	49.0	49.2	47.1	46.3	46.8	49.3	50.8	54.1	55.7	54.4	52.8	54.1	51.4

※季節調整値